



2018(平成30)年1月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL/06-6879-5021

http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

## ガンバ大阪 遠藤選手、野田選手が 小児医療センターに来訪!



その寄付金贈呈式が平成29年9月6日に行われ、ガンバ大阪から山内隆司代表取締役社長、遠藤保仁主将及び野田裕喜選手会会長にご来院いただきました。贈呈式では、ガンバ大阪選手会を代表し野田選手会会長より野口眞三郎病院長に目録が手渡されました。

野田選手はこのチャリティーオークションも今回で2回目になりました。僕たちが着用したユニフォームが違う形で、子どもたちのために役に立って嬉しいです。今後もこういった地域社会への活動を継続していきたい

本学とフレンドシップ協定を締結しているガンバ大阪より、平成28年に引き続き、ガンバ大阪選手会が行った「ユニフォームチャリティーオークション」の売上金から、150万円の寄付を本院の小児医療センターにいただくこととなりました。



「い」と話されました。本院では、今回いただいた寄付金については、一昨年に引き続き、小児医療のさらなる充実に役立てていくこととしています。

また、贈呈式の後は、遠藤選手、野田選手が小児医療センターを来訪され、入院中のお子さんたちとの交流を楽しみました。両選手はお子さんたちからの写真撮影やサインの希望に一人一人笑顔で丁寧に応じられ、憧れのサッカー選手と触れ合った入院中のお子さんたちにとっては、忘れられない、夢のような時間となりました。



### マンモグラフィ装置がリニューアル



平成29年12月に放射線部のマンモグラフィ撮影装置を最新モデルにリニューアルし、患者さんにより快適に、高精度な検査を受けていただけるようになりました。

新しく導入した装置では、乳房に接する部分が薄く、角に丸みがあり、手置き部分がソフトなため、緊張による痛みを和らげます。装置の処理能力が高いため、患者さんを検査室内でお待たせする時間は最小限になりました。高画質な3D画像から2D画像が再構成により作成できるため、被ばく量も低減できます。撮影する医療者が無理のない姿勢でポジショニングを行えるようにも工夫されており、読影医は詳細な0.5mm厚の画像と全体を把握しやすい1mm厚画像を使い分けられるようになっていて、よりレベルの高い画像診断が期待されます。

本院では今後も、患者さんにとってより安全、安心で精度の高い検査環境を提供していきます。

### 50回目のPUSH講習会を開催 安全な病院づくりを目指して



本院では、院内で状態が悪くなられた方がいれば、医師や看護師だけでなく、院内に勤務している様々な職種の職員が対応できることを目標に、「PUSH講習会」を開催しています。平成22年に「本院をより安全な病院に」というコンセプトで始まり、平成29年9月に第50回を迎えました。院内緊急コール、胸骨圧迫、AEDの使い方を含んだ45分間の講習会で、「PUSH」は「胸を押す(胸骨圧迫)」、「AEDのボタンを押す」、「自分を一步前へ押し出す」の意味で名づけられました。

これまでに延べ914名が本講習会を受講し、5回受講している職員も20名ほどいます。受講後のアンケート調査では、受講回数が増えると胸骨圧迫の手技やAEDの使い方に自信がつかうことが分かってきました。今後も2カ月に1回のペースで開催していく予定です。

## 小児医療センター イベント開催!

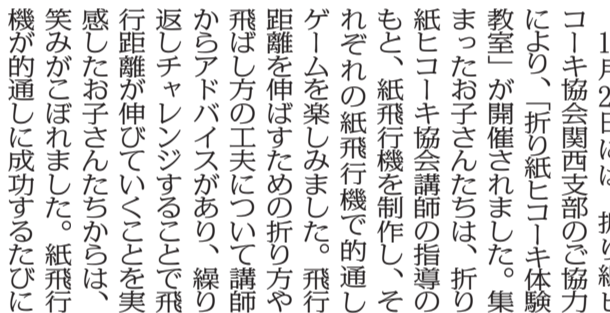
本院小児医療センター(こどもの森)では、入院中のすべてのお子さんとそのご家族に、質の高い医療を提供するなかで、入院生活が少しでも楽しくなるようにと願って、センター内で四季折々、様々な行事を開催しています。

### 秋の音楽コンサート



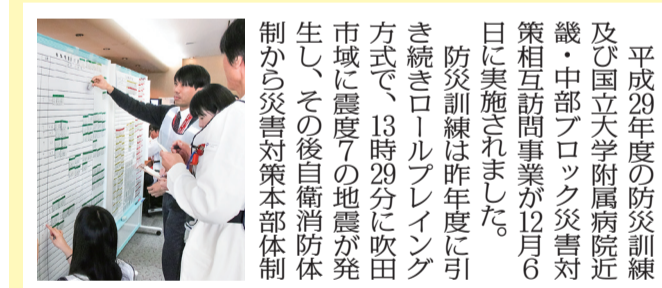
昨年9月15日、「アンサンブルリボン」による「秋の音楽コンサート」が開催されました。当日はコンサートの招待チケットと写真を持ったお子さんたちがデイルームに集まりました。コンサートでは「ちいさい秋みつけた」などの秋の唱歌メドレーや「アナと雪の女王メドレー」などが演奏されました。「ドレミのうた」では、その場にいたお子さんたちも一緒に歌い、また「幸せなら手をたたこう」では、マラカスや太鼓などをもって演奏に加わるなど、みんなで音楽と触れ合う楽しい一日となりました。

### 折り紙ヒコーキ体験教室



11月24日には、折り紙ヒコーキ協会関西支部のご協力により、「折り紙ヒコーキ体験教室」が開催されました。集まったお子さんたちは、折り紙ヒコーキ協会の指導のもと、紙飛行機を制作し、それぞれ紙飛行機で通しゲームを楽しみました。飛行距離を伸ばすための折り方や飛ばし方の工夫について講師からアドバイスがあり、繰り返しチャレンジすることで飛行距離が伸びていくことを実感したお子さんたちからは、笑みがこぼれました。紙飛行機が通しに成功するたびに部屋中から歓声があがり、会場は大いに盛り上がりました。

## 防災訓練を実施

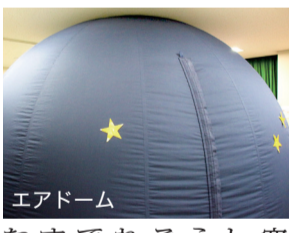


平成29年度の防災訓練及び国立大学附属病院近畿・中部ブロック災害対策相互訪問事業が12月6日に実施されました。防災訓練は昨年度に引き続きロールプレイング方式で、13時29分に吹田市域に震度7の地震が発生し、その後自衛消防体制から災害対策本部体制に移行したという設定で、14時から始まりました。災害対策本部長である病院長を中心に、副院長、院長補佐、各部門の責任者を災害対策本部メンバーとして、停電により本院の自家発電装置3機を稼働させ、断水、公共交通機関の運行停止等の

被害のもと、エレベーター停止、医療ガス製造所間の配管の障害が起きるという想定で行われました。院内やキャンパス内の負傷者に加え、近隣の災害負傷者が本院に医療処置を求めて多数来院するという内容等の「状況付与」が行われ、それらの課題に対応して情報共有し、協議、調整を図るという訓練が進められました。今回の訓練を通して得られた教訓を現行の災害対策マニュアルの見直しや業務継続計画の作成に反映し、災害拠点病院としての使命を果たせるよう努めてまいります。

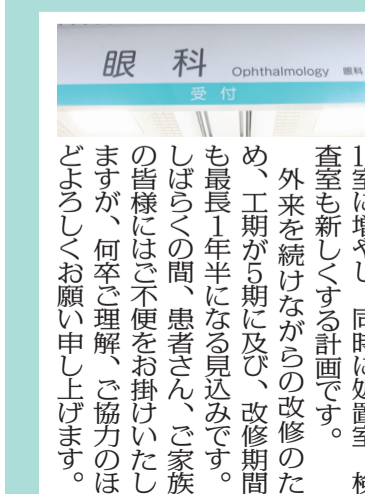


エアドームの中には美しい夜空が広がりました



エアドーム

## 眼科外来リニューアル



眼科外来では、昨年6月から改修工事を開始しております。眼科外来には毎日約250名以上、年間約5万名の患者さんが受診されており、より多くの患者さんを診察させていただくため、14の診察室で診察を行ってまいりました。そのため、一つ一つの診察室が狭く、患者さんご家族と一緒に入っていただくスペースがほとんどありませんでした。この度、患者さんがご家族と共にゆったりと診療を受けていただける空間を確保するため、眼科外来を改修し、空きスペースを有効活用して、診察室の大きさを今の2倍に広げる予定です。また、診察室の数も15室に増やし、同時に処置室、検査室も新しくする計画です。外来を続けながらの改修のため、工期が5期に及び、改修期間も最長1年半になる見込みです。しばらくの間、患者さん、ご家族の皆様にはご不便をお掛けいたしますが、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ホスピタルミニニュース

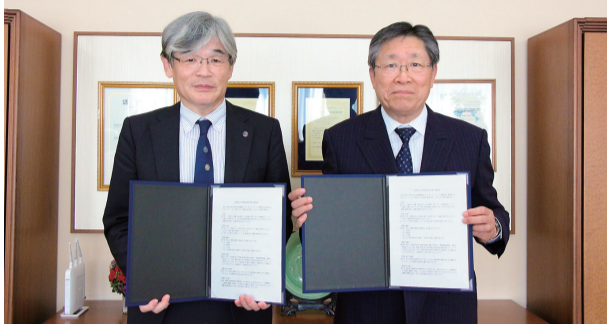
PHOTO TOPICS

12/21 小児医療センタークリスマス回診



西田ひかるさんが小児医療センターに来られました！Osaka Great Santa Runから奇贈していただいたクリスマスプレゼントがお子さんたちに届けられました。

9/29 恵済団との災害協定



本院は、一般財団法人恵済団と、災害時における物資の提供に関する協定を締結しました。この協定は、大規模災害が発生した場合、本院の災害応急対策活動を支援するため、恵済団から食料品や日用品等を提供いただくものです。

12/1 消防訓練



患者さんや職員の安全を確保するための避難・誘導等訓練と消火器・消火用散水栓の実地訓練を行いました。

12/2 市民公開フォーラム報告



「免疫チェックポイント阻害剤によるがん治療」と題して、一般市民の方々を対象にフォーラムを開催しました。

12/22 クリスマスコンサート



「女声二重唱 デュオ・はもーる」とピアノ伴奏による演奏会を外来棟エントランスホールで開催しました。



腎血流ドブラ検査



動脈硬化検査

高血圧診療に関する各種検査例

超高齢社会を迎え、個々の高齢者に最適な、そして負担の少ない診療の重要性が増しています。高齢者は高血圧や糖尿病など複数の病気を併発しているケースが多く、また視力、聴力や筋力など生理的機能や運動能力の減退による訴えも多くなります。そこには何らかの病気が隠れている可能性もあり、放置すると悪化してしまいます。老年内科は、もの忘れがひどい、体重が急減している、ふらつきが強いなどの体調不良を感じておられる患者さんの診療と生活改善に取り組み、高齢者が健康に長寿を全うできるように

加齢に伴い複数の症状を訴える病態は「老年症候群」と呼ばれますが、臓器別の診療では限界があります。当科は、患者さんの健康状態や筋力、既往歴、精神状態、生活状況、社会的環境などを総合的に診る「高齢者総合的機能評価(CGA)」などにより、心身の現状や背景をトータルに把握することで、診療の方向性やレベルなどを、患者さんやご家族と共に探っていきます。また、平成18年より外科と連携して「高齢者外科手術前評価」も実施し、術後のせん妄や術後管理のリスクを予測し診療に役立てています。社会的な課題となっている

最適で負担の少ない医療を患者さんに健康寿命の延伸に貢献したい 老年・高血圧内科

内分泌高血圧、腎臓の動脈が細くなることで血圧が上がる腎血管性高血圧など、二次性高血圧の診断を専門としています。高血圧の原因や悪化の要因となる睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング(選別)検査も実施しているほか、難治性高血圧専門の特設外来も設



病棟カンファレンス

認知症については、外来における短時間の問診では確定が難しく、独自プログラムとして「もの忘れパス入院」を実施しています。画像検査、詳細な問診や心理テストに加え、血液検査、身体機能の評価、髄液検査などの検査を組み合わせて、認知症のタイプや治療の方針を決定します。一方の高血圧内科は、特に「高齢者高血圧」について実績があり、日本の診療ガイドラインの作成を担っています。また、薬を飲んでも血圧が下がらない難治性高血圧や、腫瘍などが原因でホルモンが過剰に分泌され血圧が上がる内

平成15年に新幹線の運転士が居眠り運転をしていた列車緊急停止事故で、その原因が睡眠時無呼吸症候群(SAS)であったことが判明して以降、様々な睡眠の問題が大きな社会問題として注目されるようになりまし。このため睡眠の病気というSASと考えられるがちですが、現代社会における睡眠の問題や睡眠関連疾患(睡眠の特殊な病気)はSASだけでなく、症状や原因も多様です。このため、適切な睡眠医療の提供には複数の診療科の連携を必要とすることがしばしばあります。当センターには神経科・精神科をはじめ、耳鼻咽喉科や小児科、循環器内科、老年・高血圧内科をはじめ、複数診療科が加

国内でも数少ない集学的な睡眠医療を提供 複数診療科から構成される機能的ユニット

睡眠医療センター

わりの、大阪大学歯学部附属病院とも協力しながら、病気の症状や重症度にあわせた治療を行っています。実際の診療では、自覚他覚症状についての問診、血液検査(高脂血症、糖尿病、多血症、甲状腺機能、アレルギーなどのチェック)、内視鏡検査

(上気道の形態評価)、レントゲン検査、頭部MRI検査、脳波検査などを症状に応じて行っています。さらに睡眠の状態を精密に検査する必要がありと判断した場合や、睡眠関連疾患の存在が疑われた場合には、確定診断・治療のため終夜睡眠ポリグラフ検査(Polysomnography, PSG)や反復睡眠時検査(Multiple Sleep Latency Test, MSLT)といった睡眠の特殊検査を行います。現在当センターではSAS以外にも、ナルコレプシーなどの中枢性過眠症、睡眠リズムが狂ってしまう概日リズム睡眠障害、レム睡眠行動異常症や下肢静止不能症候群など様々な睡眠関連疾患の診療に対応しています。

最近ではSASについては、比較的手軽に自宅で実施できる循環呼吸モニターによる簡易検査(胸部呼吸運動、気流測定、動脈酸素飽和度などの測定のみ)が普及し、以前と比べると地域の病院等でも診療を受けやすくなっています。しかし、非常に多様な睡眠の病気に対し包括的な診療を行える睡眠医療専門医や睡眠技士は大変少なく、睡眠の特殊な検査を実施できる施設も国内ではまだまだ少ない状況です。「眠らない社会」といわれる現代で睡眠の問題は医療のみならず、ますます社会的問題にもなってくると思われま。睡眠の問題を抱える多くの患者さんの社会的要請に応えるためにも、当センターの果たす役割が大きくなっていくことが予想され、診療機能の充実とともに、睡眠医療専門医・睡眠技士の育成にも力を入れていかねばならないと考えています。



終夜睡眠ポリグラフ検査により睡眠関連疾患を適切に評価

けています。さらに、患者さんが自ら進んで治療に参加できるように「1週間高血圧教育入院」も実施し、心機能、動脈硬化評価を含めた各種検査を受けながら高血圧について詳しく学んでいただいています。当科は高齢者の病気を総合的に診て治療の方針を示す「全人的医療」をモットーとしています。様々な病気に対し処方された複数の薬が相互作用することで、治療の予後が悪化しないよう、薬の処方を一元的に管理し、退院後の支援体制なども考慮した診療も実践しています。

認知症の患者さんを診療する機会も多いですが、人生経験が豊富な方たちに対する敬意を忘れず接することを大切にしています。そして老年医療のトップランナーとして、健康寿命を延伸できる医療を提供していきたいと考えています。

延原事務部長と栄養管理室が考案した「夏やさいの天麩羅」を8月25日に提供しました。夏が旬の冬瓜を使った炊き合わせや、オクラやズッキーニの天麩羅、緑色が鮮やかな枝豆ご飯、スイカやキウイなど色とりどりに仕上げたゼリーで、夏らしい御膳にしました。ランチオンマットは水辺の花火をイメージして作成しました。患者さんからは「色がきれい」、「退院が近

延原事務部長おすすめ御膳

「夏やさいの天麩羅 炊き合わせ デザート 枝豆ご飯」

いから、お祝いかと思つた」、「味付きのご飯が嬉しい」などたくさんコメントをいただきました。食事と一緒に提供したカードにも「事務部長さん、優しそうで素敵なお顔を、素敵な文章嬉しかったです」といったお声をいただきました。本院では今後も、患者さんに楽しくおいしく食事を食べていただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

